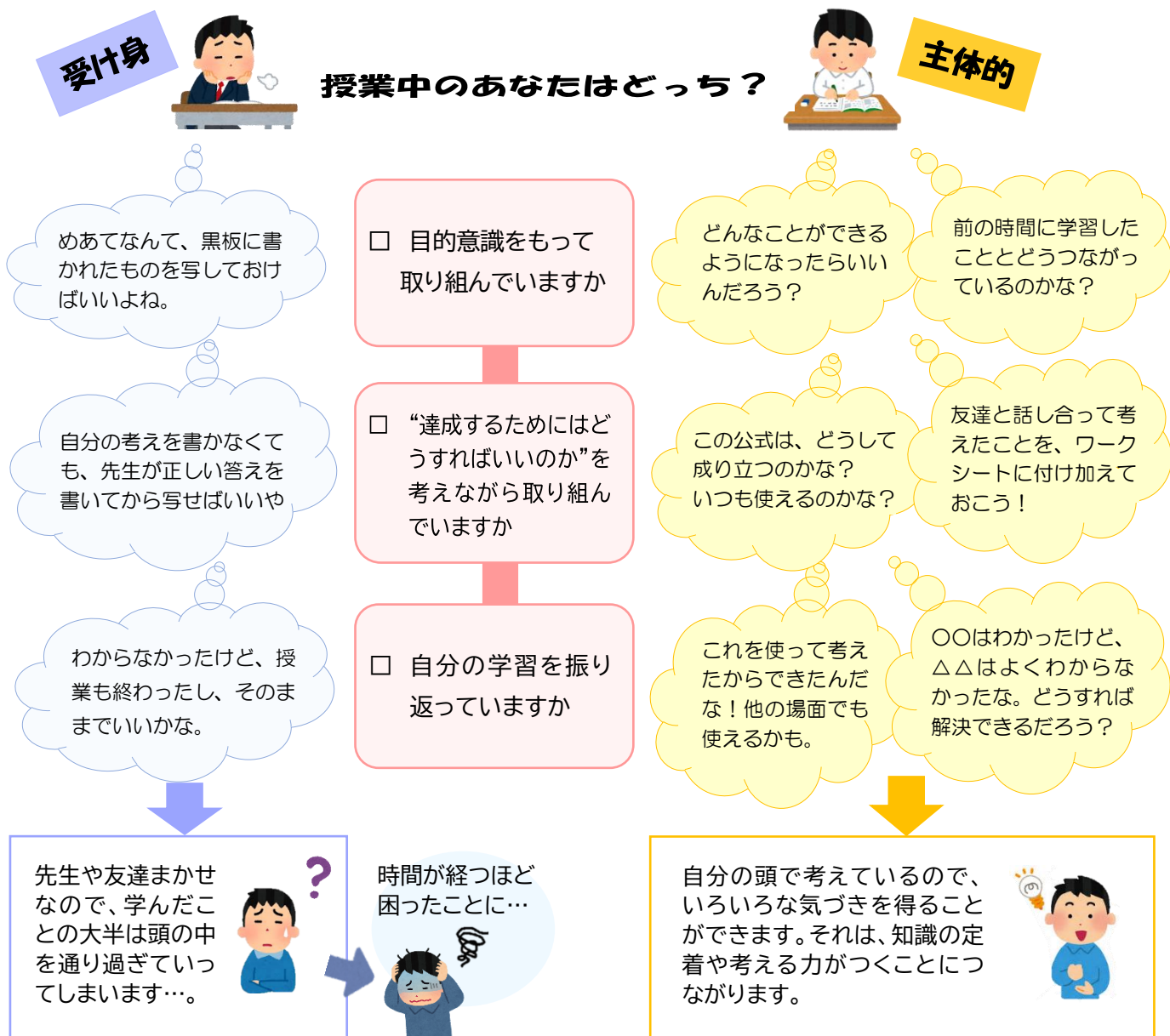


## 『主体的』ってどんな姿？

夏休みが明けて2週間が経ちました。学校の通常モードにも慣れてきたでしょうか。今回のキーワードは『主体的』です。学校の中ではよく使われる言葉で、評価の中にも“主体的に学習に取り組む態度”というものがありますね。「『主体的』ってどんな姿だろう？」と考えたとき、その反対の姿としては『受動的（=受け身）』が考えられます。この2つを比較して、授業中の様子で示してみました。次の3つの項目で、自分の授業態度を振り返ってみましょう。



『主体的』と『受け身』では、同じ授業を受けても、気づきの量や力のつき方に大きな差が出てきます。授業や家庭学習に『受け身』で取り組んでいる人は、大きな損をしているかもしれません。「自分の授業態度は『受け身』かも…」と思った人は、目の前の課題について、**“先生や友達まかせにせず、自分の頭で考える”**ということを意識してみてください。わかるところは、今までの学習とのつながりを考えたり、他にどんな場面で役立てられるのかを考えたりすることで、理解を深めることができます。また、わからないところは、どこでつまづいているのかを自分なりに考え、学び合いのときに伝えることで解決につなげることができます。“自分の頭で考える”ことの積み重ねは、半年後のみなさんを大きく成長させるはずです。みなさんのこれからの学びが、より充実したものになることを願っています。